

# H24-B14-2 68.48~72.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を書いた理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
300	68.48	68.57	-	-	-		68.48	68.57	68.48~68.57m コアはオリブ灰色を帯びる。	-
301	68.63	68.77	68.63	68.77	( <del>割れ目状態欄</del> )cランク (風化欄) aランク	( <del>割れ目状態欄</del> )bランク (風化欄) aランク	68.63	68.77	(割れ目状態欄)bランク (風化欄) aランク	-
302	68.63	70.03	-	-	-		68.63	70.03	68.63~70.03m 傾斜40~50°程度の割れ目及び潜在割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化し、細粒化もしくは細片化する。また、潜在割れ目もハンマーの打撃で分離しやすい。	-
303	68.93	69.25	-	-	-		68.93	69.25	68.93~69.00m、69.19~69.25m間は、上下位と比べて強く風化・変質し、コアは軟質となる。一部は指圧で崩せる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
304	69.18	69.22	69.18	69.22	幅30mm、上端20°、下端45°、シルト混じり砂礫状を呈する。上下端は巾1mm程度砂混じりシルト状を呈する。	幅30mm、上端20°、下端45°、明黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端は幅1mm程度の灰白色の砂混じりシルト状を呈する。	69.18	69.22	69.18~69.22m、上端50°、下端45°で幅30mmの明黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端に幅1mm程度の灰白色砂混じりシルトを伴う。	-
305	69.42	69.42	69.42	69.42	45°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	45°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	69.42	69.80	69.42m、69.72m、69.80m 傾斜40~45°で幅0.3~1mmの暗オリーブ灰色粘土を挟み、白雲母を伴う。	記事内容が同じであるため、69.72m、69.80mの記事を含めて記載した
306	69.72	69.72	69.72	69.72	40°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	40°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	-	-	-	上記でまとめて書きためたため記載しない
307	69.80	69.80	69.80	69.80	45°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	45°、割れ目に巾0.3~1mm変質粘土(暗オリーブ灰)挟在。白雲母を伴う。	-	-	-	上記でまとめて書きためたため記載しない
308	69.96	70.00	-	-	-		69.96	70.00	69.96~70.00m 傾斜75°以上の高角度変質部で指圧で容易に崩せる。全体にマンガンを伴う。	-
309	70.00	71.00	70.00	71.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)3	(RQD欄)0 (最大コア長欄)3	70.00	71.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)3	-
310	70.03	70.33	70.03	70.33	( <del>割れ目状態欄</del> )cランク	( <del>割れ目状態欄</del> )cランク	70.03	70.33	(割れ目状態欄)cランク	-
311	70.03	70.33	70.03	70.33	割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に粘土細網が分布し、コアは軟質となる。一部は指圧で崩せる。(カタクレーサイト~H様を呈する)。	割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に灰白色粘土細網が分布し、コアはやや軟質となる。一部は指圧で崩せる。(カタクレーサイト~H様を呈する)。	70.03	70.33	70.03~70.33m 割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に灰白色粘土細網が分布し、やや軟質となる。一部は指圧で崩せる。	-
312	70.03	70.14	-	-	-		70.03	70.14	70.03~70.14m マンガンが濃集する。	-
313	70.16	70.16	70.16	70.16	70°、せん断性割れ目、縁が切られている。	70°、せん断性割れ目、縁が切られている。縁は割れ目を横断しており、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	70.16	70.16	70.16m 傾斜70°の割れ目を縁が横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
314	70.33	70.88	70.33	70.88	40°程度の割れ目が連続し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目の密集するところはやや変質が進行するが、コアは概ね細片~短柱状で採取される。岩片はやや硬質である。	40°程度の割れ目が連続し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目の密集するところはやや変質が進行するが、コアは概ね細片~短柱状で採取される。岩片はやや硬質である。	70.33	70.88	70.33~70.88m 傾斜40°程度の割れ目が連続し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところは変質がやや進む。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
315	70.88	71.05	70.88	71.05	( <del>割れ目状態欄</del> )cランク	( <del>割れ目状態欄</del> )cランク	70.88	71.05	(割れ目状態欄)cランク	-
316	70.88	71.05	-	-	-		70.88	71.05	70.88~71.05m 上位と比べて風化・変質し、軟質化する。	-
317	71.00	72.00	71.00	72.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	71.00	72.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)7	-

# H24-B14-2 70.88~75.91m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
318	70.88	70.93	指圧で変形するほど軟質で、片層を呈する。上端はコア昇降により不明、下端は $\angle 45^\circ$ 。	指圧で変形するほど軟質で、 <del>片層を呈する</del> 。上端はコア昇降により不明、下端は $\angle 45^\circ$ 。変質で崩れ目状粘土が発達するが、 <del>原岩組織は認められる</del> 。	・崩れ目状粘土や原岩組織の有無について追記した。 ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「片層」を削除した。	70.88	70.93	70.88~70.93m:上端はコア昇降により不明、下端は傾斜 $45^\circ$ で変質で指圧で変形するほど軟質化し、崩れ目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。	-
319	71.05	71.32	風化・変質の程度弱く、コアは硬質となる。	風化・変質の程度弱く、コアはやや硬質となる。	・コアに合わせて硬さを変更した。	-	-	-	・記事欄以外から読み取れる硬さ、風化、変質の情報は記載しない
320	71.05	71.66	(コアの形状欄)IVランク	(コアの形状欄)Vランク	下位と同様の崩れ目頻度であるためコアの形状のランクをVランクに変更した。	71.05	71.66	(コアの形状欄)Vランク	-
321	71.32	71.79	上下位に比べて変質が進行し、コアはやや軟質となる。コア表面粗い。	-	-	71.32	71.79	71.32~71.79m:上下位に比べて変質が進み、コアの表面は粗い。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
322	71.79	73.17	(崩れ目状態欄)αランク	(崩れ目状態欄)βランク	・崩れ目に挟在物を伴わないことが多いため崩れ目状態のランクをβランクに変更した。	71.79	73.17	(崩れ目状態欄)βランク	-
323	71.79	72.14	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した。	71.79	72.14	(岩級区分欄)CM	-
324	71.79	72.14	$\angle 40^\circ \sim 60^\circ$ の崩れ目が交錯し、コアは片状を主とする。崩れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン汚染もあわせて認められる。	$\angle 40^\circ \sim 60^\circ$ の崩れ目が交錯し、コアは一部細片状となる。崩れ目沿いに細粒化が認められるほか、酸化・マンガン汚染もあわせて認められる。	・表現の適正化(片状⇒細片状) ・文章の適正化	71.79	72.14	71.79~72.14m:傾斜 $40^\circ \sim 60^\circ$ の崩れ目が交錯し、一部細片状となる。崩れ目沿いに細粒化し、酸化・マンガン汚染も認められる。	-
325	72.14	72.14	$\angle 40^\circ$ 、巾1~2mm、灰~緑灰色砂泥じりシルト挟在。白雲母が混入する。	$\angle 40^\circ$ 、幅1~2mm、灰~緑灰色砂泥じりシルト挟在。白雲母が混入する。	・表現の適正化(幅) ・崩記の修正(「色」の記載漏れ)	72.14	72.14	72.14m:傾斜 $40^\circ$ で幅1~2mmの灰~緑灰色砂泥じりシルトを挟み、白雲母を伴う。	-
326	72.14	72.90	$\angle 20^\circ \sim 30^\circ$ の崩れ目が1~10cm間隔で発達する。崩れ目沿いに岩質劣化するが、コアは硬質、ハンマー打跡で金属音を発する。	-	-	72.14	72.90	72.14~72.90m:傾斜 $20^\circ \sim 30^\circ$ の崩れ目が1~10cm間隔で発達する。崩れ目沿いに岩質劣化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
327	-	-	-	傾斜 $80^\circ \sim 90^\circ$ で幅1~2mmの石英脈を挟む。	・石英脈は周囲と異なる状況であるため追記した。	72.70	73.00	72.70~73.00m:傾斜 $80^\circ \sim 90^\circ$ で幅1~2mmの石英脈を挟む。	-
328	72.90	73.53	$\angle 50^\circ$ および $\angle 70^\circ$ 以上の高角度崩れ目が5~10cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。	$\angle 50^\circ$ および $\angle 70^\circ$ 以上の高角度崩れ目が5~10cm間隔で発達し、コアは短柱状を呈する。	・表現の適正化(高角⇒高角度) ・コアに合わせてコア形状を変更した。	72.90	73.53	72.90~73.53m:傾斜 $50^\circ$ 及び $70^\circ$ 以上の高角度崩れ目が5~10cm間隔で発達する。	・記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
329	73.00	73.13	73.00~73.13mは、やや変質(脱色)し、上下位と比べて軟質となっている。	73.00~73.13mは、やや変質(脱色)し、上下位と比べてやや軟質となっている。	・コアに合わせて硬さを修正した。	73.00	73.13	73.00~73.13m:やや変質し、脱色する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
330	73.13	73.13	73.13mの崩れ目( $\angle 40^\circ$ )は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	-	-	73.13	73.13	73.13m:傾斜 $40^\circ$ の崩れ目は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。	-
331	73.17	73.53	(コアの形状欄)IIIランク	(コアの形状欄)IVランク	・上位と同様の崩れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	73.17	73.53	(コアの形状欄)IVランク	-
332	73.53	73.74	$\angle 40^\circ$ の崩れ目が1~5cm間隔で発達し、崩れ目沿いに変質が進行する。崩れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。	-	-	73.53	73.74	73.53~73.74m:傾斜 $40^\circ$ の崩れ目が1~5cm間隔で発達し、崩れ目沿いに変質する。崩れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。	-
333	73.74	73.93	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・下位と同様の崩れ目頻度であるためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	73.74	73.93	(コアの形状欄)IVランク	-
334	73.74	75.24	(崩れ目状態欄)αランク	(崩れ目状態欄)βランク	・崩れ目に挟在物を伴わないことが多いため崩れ目状態のランクをβランクに変更した。	73.74	75.24	(崩れ目状態欄)βランク	-
335	73.62	73.63	巾10mm程度、 $\angle 40^\circ$ 崩れ目間変質により緑灰色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化している。	幅10mm程度、 $\angle 40^\circ$ 崩れ目間変質により緑灰色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化している。	・崩記の修正(「色」の記載漏れ) ・表現の適正化(幅)	73.62	73.63	73.62~73.63m:傾斜 $40^\circ$ で幅10mm程度の変質により緑灰色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化する。	-
336	73.74	74.95	73.74~74.95、 $\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の崩れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。崩れ目面わずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮。コアは片~柱状を呈し、硬質である。	73.74~74.95m、 $\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の崩れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。崩れ目面わずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮。コアは片~柱状を呈し、硬質である。	・崩記の修正(単位の記載漏れ) ・表現の適正化(片状⇒岩片状)	73.74	74.95	73.74~74.95m:傾斜 $40^\circ \sim 50^\circ$ の崩れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。崩れ目面はわずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮である。	・記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
337	74.30	74.95	崩れ目間隔広くなり、コアは柱状を主とする。	-	-	-	-	-	・記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
338	74.95	75.91	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	・崩れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した。	74.95	75.91	(岩級区分欄)CM	-



# H24-B14-2 75.24~82.03m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
	記事	記事	記事	記事		記事	記事		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
339	75.24	75.91	40° および75° 程度の割れ目が発達し、それと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目および潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。	-	-	-	75.24	75.91	75.24~75.91m: 傾斜40° 及び75° 程度の割れ目が発達し、それと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。
340	75.35	75.35	75.35m付近 235° の割れ目に沿って巾8~20mm 岩質劣化し、土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	75.35	75.35	75.35m付近 235° の割れ目に沿って幅8~20mm 岩質劣化し、土砂状を呈する。コア採取時細粒分を一部流失する。	75.35	75.35	75.35m: 傾斜35° の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。
341	75.50	76.27	(割れ目状態欄)αランク	75.50	76.27	(割れ目状態欄)βランク	75.50	76.27	(割れ目状態欄)βランク
342	75.91	77.91	40°~60° の割れ目が5~20cm間隔で発達する。割れ目沿いに黄鉄鉱(棕色)し、割れ目面は白雲母を伴い、オリブ灰色を呈する。わずかに黄鉄鉱付着する。コアは硬質で短柱~柱状を呈する。	-	-	-	75.91	77.91	75.91~77.91m: 傾斜40°~60° の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに棕色する。割れ目面はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。
343	76.27	-	76.27m以深、潜在割れ目は少なくなる。	-	-	-	76.27	-	76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。
344	-	-	-	76.65	76.65	傾斜50°、幅3~5mmの石英脈を挟む。	76.65	76.65	76.65m: 傾斜50° で幅3~5mmの石英脈を挟む。
345	77.00	77.91	割れ目間隔広くなり、コアは長柱状を呈する。	-	-	-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
346	77.17	77.91	(コアの形状欄)Ⅲランク	77.17	77.91	(コアの形状欄)Ⅱランク	77.17	77.91	(コアの形状欄)Ⅱランク
347	77.38	77.38	40° 割れ目面に黄鉄鉱が濃集する。	-	-	-	77.38	77.38	77.38m: 傾斜40° の割れ目面に黄鉄鉱が濃集して晶出する。
348	77.91	79.32	(割れ目状態欄)αランク	77.91	79.32	(割れ目状態欄)βランク	77.91	79.32	(割れ目状態欄)βランク
349	77.91	79.79	(風化欄)αランク	77.91	79.79	(風化欄)βランク	77.91	79.79	(風化欄)βランク
350	77.91	78.25	40°~60° および不規則な高角度割れ目が発達し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められるが、岩片は硬質。	77.91	78.25	40°~60° および不規則な高角度割れ目が発達し、コアは細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められるが、岩片は硬質。	77.91	78.25	77.91~78.25m: 傾斜40°~60° の他、不規則な高角度割れ目が発達し、細片状を呈する。割れ目沿いに細片化や脱色が認められる。
351	78.25	79.14	20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは片~短柱状を呈する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し(一部流失する)。割れ目のかみ合せ悪い。	78.25	79.14	20~40°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、コアは細片状を呈する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し(一部流失する)。割れ目のかみ合せ悪い。	78.25	79.14	78.25~79.14m: 傾斜20~40° の割れ目が2~10cm間隔で発達する。割れ目面は褐色化もしくは緑灰色化し、多くの割れ目に白雲母を伴う。割れ目沿いに細粒化し、一部流失しているため割れ目のかみ合せが悪い。
352	78.44	78.61	割れ目交錯し、コアは片状を主とする。	78.44	78.61	割れ目交錯し、コアは細片状を主とする。	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
353	79.14	79.79	40°~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を主とする。割れ目沿いに棕色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。	79.14	79.79	40°~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは細片状を主とする。割れ目沿いに棕色・細粒化が進行する。コア採取時に細粒物を流失している。	79.14	79.79	79.14~79.79m: 傾斜40°~50° の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに棕色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。
354	79.42	79.42	巾5~10mm、20°、灰色帯、石英の粒からなる。	79.42	79.42	幅5~10mm、20°、灰色の石英脈を挟む。	79.42	79.42	79.42m: 傾斜20° で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。
355	79.64	79.79	上下位と比べて黄鉄を強く受ける。コアは軟質となっている。又、割れ目沿いの褐色化が目立つ。	-	-	-	79.64	79.79	79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。
356	79.77	79.77	巾8mm、40°、灰白~暗褐色を呈するシルト質砂状を呈する。	79.77	79.77	幅8mm、40°、灰白~暗褐色を呈し、シルト質砂状に変質する。硬質。	79.77	79.77	79.77m: 傾斜40°、幅8mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に変質するが、硬質である。
357	79.77	79.79	巾10mm、40°	79.77	79.79	巾10mm、40°	-	-	-
358	79.79	82.03	(割れ目状態欄)αランク	79.79	82.03	(割れ目状態欄)βランク	79.79	82.03	(割れ目状態欄)βランク

# H24-B14-2 79.79~85.14m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事		記事	記事		記事
	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか?		追加変更した情報が正しく転記されているか?			選定した記事内容		
		<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>					
359	79.79	82.13	440°~50°の割れ目が9~8cm間隔で発達し、コアは短柱状を主とする。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色が認められるが、岩質は硬質である。	-	-	-	79.79~82.13m:傾斜40~50°の割れ目が9~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに脱色する。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	
360	80.00	82.03	(風化帯)γランク	80.00	82.03	(風化帯)βランク	(風化帯)βランク	-	
361	80.63	81.47	70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目面凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	-	-	-	80.63~81.47m:傾斜70°以上の高角割れ目が発達する。割れ目面は凹凸し、風化・変質、挟在物は認められない。	-	
362	81.25	81.25	40°、巾1~2mm、黄鉄鉱が割れ目に付着する。	81.25	81.25	40°、幅1~2mm、黄鉄鉱が割れ目に付着する。	81.25m:傾斜40°の割れ目に幅1~2mmで黄鉄鉱が付着する。	-	
363	81.40	81.76	30~50°の割れ目が交錯し、コアは片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せが悪い。(コア昇降による?)	81.40	81.76	30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せが悪い。(コア昇降による?)	81.40~81.76m:傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのみみ合せが悪い。	-	
364	-	-	-	81.60	81.60	傾斜50°、幅2~5mmの石英脈を挟む	81.60m:傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。	-	
365	-	-	-	81.99	81.99	傾斜45°、幅1mmの石英脈を挟む	81.99m:傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。	-	
366	82.13	82.72	(コアの形状欄)Ⅱランク	82.13	82.72	(コアの形状欄)Ⅱランク	(コアの形状欄)Ⅱランク	-	
367	82.13	83.59	上位と比べて割れ目(40~50°)間隔広くなり(10~20cm程度)、コアは柱状を主とする。割れ目面は緑白~オリブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに脱色が認められる。	82.13	83.59	上位と比べて割れ目(40~50°)間隔広くなり(10~20cm程度)、コアは長柱状を主とする。割れ目面は緑白~オリブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。また、割れ目沿いおよび潜在割れ目沿いに脱色が認められる。	82.13~83.59m:上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目面は緑白~オリブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに脱色する。	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない	
368	-	-	-	82.33	82.33	傾斜40°、幅2mmの石英脈を挟む	82.33m、82.36m:傾斜40°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	記事内容が同じであるため、82.36mの記事をきめて記載した	
369	-	-	-	82.36	82.36	傾斜40°、幅1~2mmの石英脈を挟む	-	上記でまとめて書きしたため記載しない	
370	82.88	83.03	30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。又、白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	-	-	-	82.88~83.03m:傾斜30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。	-	
371	82.88	83.03	(割れ目状態欄)cランク	82.88	83.03	(割れ目状態欄)bランク	(割れ目状態欄)bランク	-	
372	83.03	83.59	(コアの形状欄)Ⅲランク	83.03	83.59	(コアの形状欄)Ⅱランク	(コアの形状欄)Ⅱランク	-	
373	83.59	83.88	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)cランク	83.59	83.88	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)bランク	(コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)bランク	-	
374	83.59	83.88	30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	-	-	-	83.59~83.88m:傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの脱色が認められるが、より明確に認識できる。	-	
375	83.88	84.54	45°程度の割れ目が10~20cm間隔で発達し、コアは柱状を呈する。コアは硬質である。	-	-	-	83.88~84.54m:上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない	
376	84.16	84.45	84.16~84.45mには、70°以上の高角割れ目が認められるが、連続性が消失する。	84.16	84.45	84.16~84.45mには、70°以上の高角割れ目が認められるが、連続性が悪い。<消失する>	84.16~84.45m:傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。	-	
377	84.54	84.54	45°割れ目面に建築鉱物(石英?)の微晶が晶出する。	84.54	84.54	45°割れ目面に柱状の建築鉱物(石英?)の微晶が晶出する。	84.54m:傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。	-	
378	84.54	84.83	(風化帯)γランク (割れ目状態欄)cランク	84.54	84.83	(風化帯)βランク (割れ目状態欄)bランク	(風化帯)βランク (割れ目状態欄)bランク	-	
379	84.54	84.83	割れ目間隔狭くなり、割れ目沿いの岩質劣化(細片、細粒化)が目立つ。	-	-	-	84.54~85.14m:割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。	-	



# H24-B14-2 84.83~94.10m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
380	82.83	82.83	∠40° 割れ目にフィルム～巾1mm方解石結晶伴う。	84.83	84.83	∠40° 割れ目にフィルム～幅1mm方解石結晶伴う。	84.83	84.83	84.83m: 傾斜40° の割れ目にフィルム～巾1mmの方解石脈を伴う。	-
381	84.83	85.06	割れ目間隔1～2cm程度と密になり、上下位と比べて変質進行し、コアはやや軟質となる。	-	-	-	84.83	85.06	84.83～85.06m: 割れ目間隔1～2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟質となる。	-
382	-	-	-	84.91	84.94	傾斜45° 幅25mm程度で変質が進み、灰白色粘土が割れ目に分布する。	84.91	84.94	84.91～84.94m: 傾斜45° で幅25mm程度で変質し、灰白色粘土が割れ目に分布する。	-
383	85.06	89.74	∠30～40° の割れ目が5～30cm間隔で発達し、コアは柱状を主とする。	85.06	89.74	∠30～40° の割れ目が5～30cm間隔で発達し、コアは長柱状を主とする。	85.06	89.74	85.06～89.74m: 傾斜30～40° の割れ目が5～30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。	-
384	85.14	85.82	(コアの形状欄) IIIランク	85.14	85.82	(コアの形状欄) IIランク	85.14	85.82	(コアの形状欄) IIランク	-
385	85.14	85.84	割れ目面の変質は認められない。	-	-	-	85.14	85.84	85.14～85.84m: 割れ目面の変質は認められない。	-
386	85.28	85.28	巾1.5mm、∠35°、石英脈	85.28	85.28	幅1.5mm、∠35°、石英脈を挟む	85.28	85.28	85.28m: 傾斜35° で幅1.5mmの石英脈を挟む。	-
387	85.59	86.28	∠60～70° の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口(分離)し、細片化を伴う。	-	-	-	85.59	86.28	85.59～86.28m: 傾斜60～70° の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。	-
388	85.82	88.31	(岩級区分欄) CM	85.82	88.31	(岩級区分欄) CH	85.82	88.31	(岩級区分欄) CH	-
389	85.96	88.31	(割れ目状態欄) cランク	85.96	88.31	(割れ目状態欄) bランク	85.96	88.31	(割れ目状態欄) bランク	-
390	85.96	87.52	高角度(∠80°以上)で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片・細粒化し、86.58～87.00mは、岩質劣化部を伴う。	-	-	-	85.96	87.52	85.96～87.52m: 傾斜80°以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化～細粒化する。86.58～87.00m間は岩質劣化部を伴う。	-
391	86.27	87.61	(コアの形状欄) IIIランク	86.27	87.61	(コアの形状欄) IIランク	86.27	87.61	(コアの形状欄) IIランク	-
392	86.50	86.58	また、86.50～86.58m間は、割れ目面に柱状の建築鉱物(石英)が晶出する。	-	-	-	86.50	86.58	86.50～86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。	-
393	87.61	-	87.61m以深、∠40～60° の割れ目が多くなる。	-	-	-	87.61	-	87.61m以深、傾斜40～60° の割れ目が多くなる。	-
394	87.61	88.31	∠40～60° の割れ目および潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。	-	-	-	87.61	88.31	87.61～88.31m: 傾斜40～60° の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリーブ灰色を帯びる。	-
395	87.73	88.31	(コアの形状欄) IVランク	87.73	88.31	(コアの形状欄) IIIランク	87.73	88.31	(コアの形状欄) IIIランク	-
396	87.73	87.73	∠40° 割れ目に黄鉄鉱が認められる。	-	-	-	87.73	87.73	87.73m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
397	88.22	88.22	∠43° 割れ目は暗オリーブ灰色化し、柱状の石英を晶出する。	-	-	-	88.22	88.22	88.22m: 傾斜43° の割れ目は暗オリーブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。	-
398	88.22	88.30	微細な有色鉱物を多く含む。コアは暗色を帯びる。	-	-	-	88.22	88.30	88.22～88.30m: 微細な有色鉱物を多く含む。コアは暗色を帯びる。	-
399	88.31	88.75	(コアの形状欄) IIIランク	88.31	88.75	(コアの形状欄) IIランク	88.31	88.75	(コアの形状欄) IIランク	-
400	88.90	89.09	∠45° 程度の割れ目が0.5～3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められるが、岩質は硬質である。	-	-	-	88.90	89.09	88.90～89.09m: 傾斜45° 程度の割れ目が0.5～3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
401	88.90	89.74	(岩級区分欄) CM	88.90	89.74	(岩級区分欄) CH	88.90	89.74	(岩級区分欄) CH	-
402	88.90	94.10	(割れ目状態欄) cランク	88.90	94.10	(割れ目状態欄) bランク	88.90	94.10	(割れ目状態欄) bランク	-

# H24-B14-2 89.09~94.24m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
403	89.09	89.41	(コアの形状欄) IIIランク	89.09	89.41	(コアの形状欄) IIランク	89.09	89.41	(コアの形状欄) IIランク	-
404	89.09	89.09	∠43° 割れ目は緑灰色化し、石英粒(φ0.3~0.5mm)が晶出する。	-	-	-	89.09	89.55	89.09m, 89.42m, 89.55m 傾斜43~50° の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目は緑灰色化する。	記事内容がほぼ同じであるため、89.42m, 89.55mの記事を含めて記載した
405	89.42	89.42	∠50°、割れ目に石英晶出する。	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
406	89.55	89.55	∠46°、割れ目に石英晶出する。	-	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
407	89.55	89.74	(コアの形状欄) IIIランク	89.55	89.74	(コアの形状欄) IIランク	89.55	89.74	(コアの形状欄) IIランク	-
408	89.74	92.03	(コアの硬さ欄) Cランク	89.74	92.03	(コアの硬さ欄) Bランク	89.74	92.03	(コアの硬さ欄) Bランク	-
409	89.74	92.03	(風化欄) Aランク (岩脈区分欄) CL	89.74	92.03	(風化欄) Bランク (岩脈区分欄) CM	89.74	92.03	(風化欄) Bランク (岩脈区分欄) CM	-
410	89.74	-	∠35~55° の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。	89.74	90.56	∠35~55° の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。	89.74	90.56	89.74~90.56m: 傾斜35~55° の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。	-
411	90.08	90.56	(コアの形状欄) Vランク	90.08	90.56	(コアの形状欄) IVランク	90.08	90.56	(コアの形状欄) IVランク	-
412	90.08	90.56	中角度の割れ目が多く、主に岩片状~塊状で採取される。	90.08	90.56	45° 程度の中角度の割れ目が多く、主に岩片状~塊状で採取される。	90.08	90.56	90.08~90.56m: 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	-
413	-	-	-	90.44	90.44	傾斜45°、幅3~8mmの石英脈を挟む。	90.44	90.44	90.44m: 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。	-
414	91.08	91.13	細かい割れ目が発達し、実質も認められ、細塊状で採取される。	-	-	-	91.08	91.13	91.08~91.13m: 細かい割れ目が発達し、実質も認められ、細塊状を呈する。	-
415	91.13	91.13	∠40° の割れ目に黄鉄鉱晶出。	-	-	-	91.13	91.13	91.13m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
416	91.48	91.63	(コアの形状欄) Vランク	91.48	91.63	(コアの形状欄) IVランク	91.48	91.63	(コアの形状欄) IVランク	-
417	91.48	91.63	中角度の割れ目が多く、主に岩片状~塊状で採取される。	91.48	91.63	10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~塊状で採取される。	91.48	91.63	91.48~91.63m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~塊状を呈する。	-
418	-	-	-	91.53	93.00	傾斜85~90°、幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。	91.53	93.00	91.53~93.00m: 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。	-
419	92.13	92.13	∠40° の割れ目の一部に黄鉄鉱晶出。	-	-	-	92.13	92.13	92.13m: 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	-
420	92.63	93.58	割れ目間隔が10cm以上となり、コアは柱状。	92.63	92.99	割れ目間隔が10cm以上となり、コアは柱状。	-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
421	93.58	94.10	(コアの硬さ欄) Cランク (岩脈区分欄) CL	93.58	94.10	(コアの硬さ欄) Bランク (岩脈区分欄) CM	93.58	94.10	(コアの硬さ欄) Bランク (岩脈区分欄) CM	-
422	93.64	93.64	∠40° の割れ目に黄鉄鉱晶出。	-	-	-	93.64	93.64	93.64m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	-
423	94.00	94.10	(コアの形状欄) Vランク	94.00	94.10	(コアの形状欄) IVランク	94.00	94.10	(コアの形状欄) IVランク	-
424	94.00	94.63	低~中角度の割れ目が多く、岩片状~塊状コアで採取される。	94.10	94.63	10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~塊状コアで採取される。	94.10	94.63	94.10~94.63m: 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~塊状を呈する。	-
425	94.24	94.24	∠45° の割れ目に厚さ1~2mmの灰白色砂質粘土を介在する。	94.24	94.24	∠45° の割れ目に厚さ1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	94.24	94.24	94.24m: 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	-



# H24-B14-2 94.34~99.94m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事	記事		記事	記事	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
426	94.34	94.34	∠40° の割れ目に黄鉄鉱晶出。	-	-	-	94.34	94.37	94.34m, 94.37m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	*記事内容が同じであるため、94.37mの記事を含めて記載した。
427	94.37	94.37	∠40° の割れ目に黄鉄鉱晶出。	-	-	-	-	-	-	*上記でまとめ書きしたため記載しない
428	94.63	95.07	(割れ目状懸濁)αランク	94.63	95.07	(割れ目状懸濁)βランク	94.63	95.07	(割れ目状懸濁)βランク	-
429	94.63	96.44	(コアの硬さ欄)Cランク	94.63	96.44	(コアの硬さ欄)Bランク	94.63	96.44	(コアの硬さ欄)Bランク	-
430	95.00	96.97	(風化欄)γランク	95.00	96.97	(風化欄)βランク	95.00	96.97	(風化欄)βランク	-
431	95.07	96.03	中角度の割れ目が多く、岩片状～礫状で採取される。	95.07	96.03	10～50° の割れ目が多く、岩片状～礫状で採取される。	95.07	96.03	95.07～96.03m: 傾斜10～50° の割れ目が多く、岩片状～礫状を呈する。	-
432	95.34	95.43	細かい割れ目が発達し、細礫状で採取される。	-	-	-	95.34	95.43	95.34～95.43m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	-
433	95.36	95.36	ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土存在。	95.36	95.36	ほぼ鉛直な割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土 挿在。	95.36	95.36	95.36m: ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。	-
434	96.38	96.54	中角度の割れ目が発達し、主に礫状で採取される。	96.38	96.54	45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状で採取される。	96.38	96.54	96.38～96.54m: 傾斜45° 程度の割れ目が発達し、主に礫状を呈する。	-
435	96.44	96.64	実質が認められ、やや軟質である。	-	-	-	96.44	96.64	96.44～96.64m, 96.80～96.97m: 実質が認められ、やや軟質である。	*記事内容が同じであるため、96.80～96.97mの記事を含めて記載した
436	96.54	96.64	細かい割れ目が発達し、主に細礫状で採取される。	-	-	-	96.54	96.64	96.54～96.64m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	-
437	96.80	96.97	実質が認められ、やや軟質である。	-	-	-	-	-	-	*上記でまとめ書きしたため記載しない
438	96.97	97.06	(割れ目状懸濁)αランク	96.97	97.06	(割れ目状懸濁)βランク	96.97	97.06	(割れ目状懸濁)βランク	-
439	96.97	97.50	(岩紋区分欄)CM	96.97	97.50	(岩紋区分欄)CH	96.97	97.50	(岩紋区分欄)CH	-
440	97.06	100.40	(割れ目状懸濁)αランク	97.06	100.40	(割れ目状懸濁)βランク	97.06	100.40	(割れ目状懸濁)βランク	-
441	97.50	98.09	中～高角度の割れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	97.50	98.09	45～70° の割れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	97.50	98.09	97.50～98.09m: 傾斜45～70° の割れ目が多く、岩片状～礫状を呈する。	-
442	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Cランク	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Bランク	97.60	98.08	(コアの硬さ欄)Bランク	-
443	97.83	97.86	細かい割れ目が発達し、細礫状で採取される。	-	-	-	97.83	97.86	97.83～97.86m: 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。	-
444	98.28	100.40	不規則な割れ目が多く、主に岩片状～礫状で採取される。	-	-	-	98.28	100.40	98.28～100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片～礫状を呈する。	-
445	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Cランク	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Bランク	98.28	100.40	(コアの硬さ欄)Bランク	-
446	98.84	98.94	(コアの形状欄)Ⅱランク	98.84	98.94	(コアの形状欄)Ⅳランク	98.84	98.94	(コアの形状欄)Ⅳランク	-
447	99.61	99.66	細かい割れ目が多く、実質が認められ、やや軟質である。	-	-	-	99.61	99.66	99.61～99.66m: 細かい割れ目が多く、実質が認められ、やや軟質である。	-
448	-	-	-	99.94	99.94	傾斜25° 幅5mmで橙色のかり長石が脈状に分布する。	99.94	99.94	99.94m: 傾斜25° で幅5mmの橙色のかり長石が脈状に分布する。	-

# H24-B14-2 100.40~104.61m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
449	100.40	100.52	細かい割れ目が発達し、実質を受け、やや軟質で、塊状～土砂状で採取される。	-	-	-	100.40	100.52	100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、実質を受け、やや軟質で、塊状～土砂状を呈する。	-
450	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	100.52	100.75	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
451	100.75	101.03	実質が明瞭で、やや軟質である。	-	-	-	100.75	101.03	100.75~101.03m: 実質が明瞭で、やや軟質である。	-
452	100.90	101.03	細かい割れ目が発達し、土砂に近い状態で採取される。	-	-	-	100.90	101.03	100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。	-
453	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Cランク	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Bランク	101.03	101.47	(割れ目状態欄)Bランク	-
454	101.47	101.52	破砕帯	101.47	101.52	破砕帯 最新活動面は101.50m	101.47	101.52	●101.47~101.52m: 破砕帯 101.47~101.50m: 粘土質砂状部(Hb) 傾斜25°で直線的に連続。下端に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。実質が濃い。灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂状部(Hc) 上端25°、下端20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。	-
455	101.47	101.50	破砕を受け、実質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。∠25°、(Hb)。	101.47	101.50	破砕を受け、実質も著しく、灰白色粘土質砂状を呈する。∠25°で直線的に連続。(Hb)。径2~5mmの岩片を含む。やや硬質。含まれる細粒部は割れ目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、実質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。幅30mm。	101.47	101.50	●破砕、境界面及び細粒部の連続性・直線性。破砕部中の岩片、原岩組織が認められる岩片を主体とし、実質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	-
456	-	-	-	101.50	101.50	灰白色のフィルム状粘土を伴う。直線性が良い。	101.47	101.52	-	-
457	101.50	101.52	粘土混じり砂状部(Hc)	101.50	101.52	粘土混じり砂状部(Hc) 上端25°、下端20°で直線的に連続。 硬質で、径20mm以下の岩片主体。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、実質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。	101.50	101.52	●破砕部内物質、上端下端境界、幅、色調、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、実質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	-
458	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	101.52	102.09	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
459	-	-	-	102.11	103.92	径1~3cm程度のカリ長石の大型斑晶が目立つ。	102.11	103.92	102.11~103.92m: 径1~3cm程度のカリ長石の大型斑晶が目立つ。	-
460	102.55	102.94	中角度の割れ目が多く、岩片状~細塊状で採取される。	102.55	102.94	10~50°の割れ目が多く、岩片状~細塊状で採取される。	102.55	102.94	102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細塊状を呈する。	-
461	102.94	103.11	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク	102.94	103.11	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク	102.94	103.11	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク	-
462	102.94	103.11	細かい割れ目が発達し、実質も明瞭で、塊状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が混在する。	102.94	103.11	細かい割れ目が発達し、褐色実質も明瞭で、塊状～土砂状で採取される。一部灰白色粘土が混在する。	102.94	103.11	102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、緑色に変質し、塊状～土砂状を呈する。一部灰白色粘土を派状に伴う。	-
463	-	-	-	103.11	103.53	径0.5~10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。	103.11	103.53	103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の斑晶が目立つ。	-
464	103.11	103.93	(割れ目状態欄)Cランク	103.11	103.93	(割れ目状態欄)Bランク	103.11	103.93	(割れ目状態欄)Bランク	-
465	103.11	103.93	中角度の割れ目が多く、低角度の潜在割れ目が発達する。全体に弱い実質を受けている。	103.11	103.93	20~60°の割れ目が多く、5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱い実質を受けている。	103.11	103.93	103.11~103.93m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く実質を受ける。	-
466	-	-	潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	103.93	104.61	潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	103.93	104.61	103.93~104.61m: 潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。	-
467	104.44	105.54	中角度の割れ目が多く、主に岩片状で採取される。	104.44	105.54	10~50°の割れ目が多く、主に岩片状で採取される。	104.44	105.54	104.44~105.54m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。	-
468	104.44	104.61	(コアの形状欄)Vランク (岩線区分欄)CL	104.44	104.61	(コアの形状欄)IVランク (岩線区分欄)CM	104.44	104.61	(コアの形状欄)IVランク (岩線区分欄)CM	-



# H24-B14-2 104.44~107.81m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容	
(割れ目状態欄)Gランク	104.44	105.54	(割れ目状態欄)Gランク	104.44	105.54	割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	104.44	105.54	(割れ目状態欄)Gランク	-	
-	-	-	-	104.47	104.65	径3~10mmの橙色のかり長石の斑晶が目立つ。	径色のかり長石は周囲と異なる状況であるため、追記した。	104.47	104.65	104.47~104.65m: 径3~10mmの橙色のかり長石の斑晶が目立つ。	-
(コアの硬さ欄)Cランク	105.00	105.54	(コアの硬さ欄)Bランク	105.00	105.54	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	105.00	105.54	(コアの硬さ欄)Bランク	-
破砕帯(主せん断面:105.61m)	105.54	105.61	破砕部(最新活動面は上端105.54mから105.61mの可能性がある)	105.54	105.61	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は明確で判断できないため削除した	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は明確で判断できないため削除した	105.54	105.61	●105.54~105.61m: 破砕部 シルト混じり砂礫状部(H) 上端45°、下端45°でともに直線的に連続、径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が散在に分布する。変質が著しく、オリブ灰色を呈する。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
45°の割れ目間は破砕を受け、変質が著しく、土砂状を呈する。灰白色粘土が散在に混在する。	105.54	105.61	45°の割れ目間は破砕を受け、変質が著しい。土砂状を呈する。灰白色粘土が散在に混在する。シルト混じり砂礫状(H)を呈する。上端45°、下端45°でともに直線的に連続、径30mm以下の岩片主体。オリブ灰色を呈し、硬軟で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も見られる。	105.54	105.61	破砕部内物質、色、硬、破砕部中の岩片、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	破砕部内物質、色、硬、破砕部中の岩片、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した	105.54	105.61	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	-
(割れ目状態欄)Bランク	105.61	106.22	(割れ目状態欄)Bランク	105.61	106.22	割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	105.61	106.22	(割れ目状態欄)Bランク	-
(コアの硬さ欄)Cランク	105.61	107.12	(コアの硬さ欄)Bランク	105.61	107.12	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	105.61	107.12	(コアの硬さ欄)Bランク	-
中角度の割れ目が多く、主に岩片状~糜状で採取される。	105.61	107.12	30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~糜状で採取される。	105.61	107.12	中角度を具体的な数値に変更した	中角度を具体的な数値に変更した	105.61	107.12	105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~糜状を呈する。	-
45°の割れ目が卓越し、その割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺には変質が認められる。	106.22	106.34	45°の割れ目は卓越し、その割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺には変質が認められる。	-	-	-	-	106.22	106.34	106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺には変質が見られる。	-
45°、40°の割れ目。厚さ3~6mmの粘土質砂が介在。7.5GY3/1暗緑灰。	106.48	106.49	45°、40°の割れ目。厚さ3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂が介在する。白色鉱物を伴う。7.5GY3/1暗緑灰。	106.48	106.49	色調を追記した。 白色鉱物は周囲と異なる状況であるため、追記した。 表現の適正化(括弧)	色調を追記した。 白色鉱物は周囲と異なる状況であるため、追記した。 表現の適正化(括弧)	106.48	106.49	106.48~106.49m: 傾斜15°、傾斜50°の割れ目に径3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。	-
45°の割れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土が介在。	106.68	106.69	45°の割れ目沿いには、灰白色砂・細礫混じり粘土が介在する。	106.68	106.69	表現の適正化(括弧)	表現の適正化(括弧)	106.68	106.69	106.68~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。	-
黒色変質部、45°。	106.78	106.83	ドレイイト脈、45°、やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アプライトとの境界は明確である。アプライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。	106.78	106.83	追記した所見から、アプライトの変質部ではなく、ドレイイト脈であると判断して変更した	追記した所見から、アプライトの変質部ではなく、ドレイイト脈であると判断して変更した	106.78	106.83	106.78~106.83m: 傾斜16°のドレイイト脈を挟む、やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アプライトとの境界は明確である。アプライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。	-
粘土質砂・細礫状、45°。7.5GY3/1暗緑灰。	106.78	106.80	ドレイイトの変質部で、粘土質砂・細礫状を呈する。45°、暗緑灰色(7.5GY3/1)を呈する。	106.78	106.80	ドレイイトの変質部であることを追記した。 文章の適正化	ドレイイトの変質部であることを追記した。 文章の適正化	106.78	106.80	106.78~106.80m: 傾斜50°のドレイイトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。	-
黒色変質部、不規則。106.83mの変質部と細脈で連続。	106.91	106.92	ドレイイト脈、不規則。106.83mのドレイイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。	106.91	106.92	ドレイイト脈であることを追記した。 106.83mのドレイイト脈との連続性について追記・修正した	ドレイイト脈であることを追記した。 106.83mのドレイイト脈との連続性について追記・修正した	106.91	106.92	106.91~106.92m: 不規則な形状のドレイイト脈で、106.83mのドレイイト脈と高角度割れ目の細脈で連続する。	-
中~高角度の割れ目が多く、主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。	107.12	107.29	45~90°の湾曲した割れ目が多く、主に角礫状で採取される。高角度の割れ目沿いには変質が進行し、シルト質砂礫状を呈する。	107.12	107.29	中角度を具体的な数値に変更し、性状を追記した	中角度を具体的な数値に変更し、性状を追記した	107.12	107.29	107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いには変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。	-
糜状~砂状を呈し、灰白色粘土が網目状にみられる。	107.29	107.45	-	-	-	-	-	107.29	107.45	107.29~107.45m: 砂~細礫状を呈し、灰白色粘土が網目状に分布する。	-
暗灰色砂質粘土礫状(多少固結)、厚さ3~9mm、黄鉄鉱を伴う、45°。	107.30	107.31	径3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分級する。砂質粘土礫状(多少固結)、厚さ3~9mm、黄鉄鉱を伴う、45°。	107.30	107.31	変質部であることを追記した。 粘土は幅1mm以下で不連続に分布するのみで、主体は砂状を呈することを追記した。 岩片の定向配列の有無について追記した。 粘土の分級について追記した。 追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した	変質部であることを追記した。 粘土は幅1mm以下で不連続に分布するのみで、主体は砂状を呈することを追記した。 岩片の定向配列の有無について追記した。 粘土の分級について追記した。 追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した	107.30	107.31	107.30~107.31m: 傾斜55°で径3~9mmの暗灰色変質部で砂状を呈する。幅1mm以下の暗灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗灰色粘土は分級し、黄鉄鉱を伴う。	-
(コアの形状欄)Vランク	107.45	107.55	(コアの形状欄)V1ランク	107.45	107.55	割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをV1ランクに変更した	割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをV1ランクに変更した	107.45	107.55	(コアの形状欄)V1ランク	-
中~高角度の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。割れ目沿いには緑色変質している。	107.45	108.11	多方向の割れ目が多く、主に角礫岩片状で採取される。割れ目沿いには緑色変質している。	107.45	108.11	多方向の割れ目が多いため修正した。 緑色変質は周囲と異なる状況であるため追記した	多方向の割れ目が多いため修正した。 緑色変質は周囲と異なる状況であるため追記した	107.45	108.11	107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いには緑色変質する。	-
(コアの硬さ欄)Bランク	107.55	107.81	(コアの硬さ欄)Bランク	107.55	107.81	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	107.55	107.81	(コアの硬さ欄)Bランク	-

# H24-B14-2 107.81~110.85m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事					
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度					
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事を削除・変更・追記した理由				
489	107.81	108.11	-	-	-	-	-	107.81~108.11m: 高角度の割れ目沿いに実質が進み、シルト質砂礫状を呈する。 (実質欄)2ランク	-			
490	108.28	108.33	108.28	108.33	108.28	108.33	108.28	108.33	108.28	108.33	(実質欄)3ランク	-
491	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	108.29	∠57°の割れ目に灰白色粘土1~2mm介在。 ∠57°の割れ目に灰白色の方解石脈、幅1~2mm挟在。	-
492	108.33	109.16	-	-	-	-	-	108.33~109.16m: 全体に実質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。 (色調欄)10GV8/1(明緑灰)	108.33	109.16	108.33~109.16m: 全体に実質を受け、緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。	-
493	108.33	108.55	108.33	108.55	108.33	108.55	108.33	108.55	108.33	108.55	(色調欄)17.5V7/2(明緑灰)	-
494	-	-	108.94	108.94	108.94	108.94	108.94	108.94	108.94	108.94	傾斜50°、幅0~8mmで方解石脈を挟む。	-
495	109.00	110.00	109.00	110.00	109.00	110.00	109.00	110.00	109.00	110.00	(ROD欄)26 (最大コア長欄)15	-
496	109.16	109.46	109.16	109.46	109.16	109.46	109.16	109.46	109.16	109.46	(ROD欄)0 (最大コア長欄)9	-
497	109.16	109.18	109.16	109.18	109.16	109.18	109.16	109.18	109.16	109.18	109.16~109.46m: 破砕帯(D-1破砕帯)(主せん断面:109.16m) 109.16~109.46m: 破砕帯(D-4破砕帯)(最新活動面:109.16m)	-
498	109.18	109.30	109.18	109.30	109.18	109.30	109.18	109.30	109.18	109.30	∠75°、細粒泥り粘土状、幅2~10mm。(Hc-2)。 ∠75°の割れ目間の幅6cmは、実質が著しく、粘土質砂・細礫状である。(Hb)。上盤の2~10mm、下盤の10~20mmは砂質粘土状(Hc-2相当)が不規則に分布する。	-
499	109.30	109.32	109.30	109.32	109.30	109.32	109.30	109.32	109.30	109.32	∠75°、細粒泥り粘土状、幅2~10mm。(Hc-2)。 直線性が良く、軟質で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。明緑灰色を呈する。	-
500	109.32	109.46	109.32	109.46	109.32	109.46	109.32	109.46	109.32	109.46	砂質粘土状、∠80°、幅10~20mm。(Hc-2)。 傾斜しり粘土状、下盤∠80°でやや波打って連続、幅10~20mm。(Hc-2)。 硬質で、直線性が著しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。明緑灰色を呈する。	-
501	109.46	109.70	109.46	109.70	109.46	109.70	109.46	109.70	109.46	109.70	∠80°の割れ目の上盤側は全体に実質を受け、明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの白色粘土が存在する。(Hd)。 粘土泥り硬状部。 上盤80°でやや波打って連続、下盤80°で湾曲する。硬質で含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅8cm程度。	-
502	109.46	112.49	109.46	112.49	109.46	112.49	109.46	112.49	109.46	112.49	破砕部の下盤側は実質を受け、にぶい褐色を呈する。 破砕部の下盤側は実質を受け、にぶい褐色を呈する。	-
503	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	109.84	∠70°の割れ目が多く、岩片状~細礫状で採取される。 30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状で採取される。	-
504	110.12	110.78	110.12	110.78	110.12	110.78	110.12	110.78	110.12	110.78	∠70°の割れ目に厚さ1mmの白色粘土が存在する。 ∠70°の割れ目に厚さ1mmの白色粘土が挟在する。	-
505	-	-	110.80	110.85	110.80	110.85	110.80	110.85	110.80	110.85	30~50°の割れ目が密集し、細礫状で採取される。 110.80m、110.85m: 傾斜50°、幅0~1mmの方解石脈を挟む。	-





# H24-B14-2 117.22~123.39m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
527	117.22	126.52	割れ目状状態)αランク	117.22	126.52	割れ目に接在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをβランクに変更した	117.22	126.52	(割れ目状状態)αランク	-	
528	117.37	120.00	割れ目多く、岩片状～塊状で採取される。	117.37	117.58	割れ目多く、岩片状～塊状で採取される。	-	117.37	117.58	117.37～117.58m: 割れ目が多く、岩片状～塊状を呈する。	-
529	117.58	117.58	∠45°の割れ目に厚さ2～4mmで黄鉄鉱晶出。緑泥石、方解石(塩酸で発泡する)を伴う。	117.48	117.48	∠45°の割れ目に厚さ2～4mmで黄鉄鉱晶出。緑泥石、方解石(塩酸で発泡する)を伴う。	117.48	117.48	117.48m: 傾斜45°、幅2～4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。	-	
530	117.95	120.00	割れ目が多く、岩片状～細塊状で採取される。	117.95	125.10	割れ目が多く、岩片状～細塊状で採取される。	-	117.95	125.10	117.95～125.10m: 割れ目が多く、岩片状～細塊状を呈する。	-
531	118.42	120.00	(風化層)αランク	118.42	120.00	(風化層)βランク	118.42	120.00	(風化層)βランク	-	
532	118.42	122.18	(コアの硬さ欄)αランク	118.42	122.18	(コアの硬さ欄)βランク	118.42	122.18	(コアの硬さ欄)βランク	-	
533	118.83	118.92	主に細塊状で採取される。	-	-	-	118.83	118.92	118.83～118.92m: 主に細塊状を呈する。	-	
534	119.32	119.32	∠20°の割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土が介在。	119.32	119.32	∠20°の割れ目に厚さ1mmの灰白色粘土を挟む。	119.32	119.32	119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	-	
535	120.00	-	120m以深も緩ねコア形状1～3cmの岩片状コアが主体。5～10cm以上で見掛け上、残留するコアも1～3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの軽打で低密着割れ目によって岩片化する。各割れ目の面は実質で暗緑色化することがある。長石は概ね白濁化している。	120.00	-	120m以深も緩ねコア形状1～3cmの岩片状コアが主体。5～10cm以上で見掛け上、残留するコアも1～3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの軽打で低密着割れ目によって岩片化する。各割れ目の面は実質で暗緑色化することがある。長石は概ね白濁化している。	-	-	-	-	・表現の適正化(沿って)
536	120.30	122.00	10～40°と60～80°割れ目が交差し、径1～3cmに細かく岩片化している。	-	-	-	120.30	122.00	120.30～122.00m: 傾斜10～40°と60～80°の割れ目が交差し、径1～3cmに岩片化する。	-	
537	120.50	120.50	72°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	120.50	120.50	72°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	120.50	120.50	120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	-	
538	121.15	121.15	75°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	121.09	121.50	121.09～121.50m付着。85～90°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	121.09	121.50	121.09～121.50m: 傾斜85～90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	-	
539	121.50	121.50	80°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	121.50	121.50	80°割れ目に淡緑色の粘土(厚さ0.5mm)が付着する。	-	-	-	-	・上記に含めたため削除した
540	122.18	122.40	55～60°割れ目ぞいで一部軟質化する(硬さD)。実質粘土は伴わない。	122.18	122.40	55～60°割れ目沿いで一部軟質化する(硬さD)。白色化しているが実質粘土は伴わない。	122.18	122.40	122.18～122.40m: 傾斜55～60°の割れ目沿いで一部軟質化する。白色化するが、実質粘土は伴わない。	-	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
541	122.28	128.42	(コアの硬さ欄)αランク	122.28	128.42	(コアの硬さ欄)βランク	122.28	128.42	(コアの硬さ欄)βランク	-	
542	122.80	122.80	55°割れ目に淡緑色粘土(厚さ0.5mm)が付着し、割れ目下方傾約2cmが軟化(硬さD)。	122.82	122.82	55°割れ目に淡緑色粘土(厚さ0.5mm)が付着し、割れ目下方傾約2cmが軟化(硬さD)。	122.82	122.82	122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下傾側が幅2cmで硬さDに軟質化する。	-	
543	122.99	122.99	60°割れ目に淡緑色粘土(厚さ0.5mm)付着。	122.99	122.99	60°割れ目に淡緑色粘土(厚さ0.5mm)付着。	122.99	122.99	122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	-	
544	123.10	129.41	見掛け上、5～10cmの短～棒状コアであるが、1～3cmで低密着割れ目が発達し、ここから岩片化しやすい(コア形状V)。	123.10	125.10	見掛け上、5～10cmの短～棒状コアであるが、1～3cmで低密着割れ目が発達し、ここから岩片化しやすい(コア形状V)。	-	-	-	-	・記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
545	123.39	123.39	70°、真傾0.5～1cmで粘土混じり塊状を呈する。下傾側の70°割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)と黄鉄鉱が晶出。また、123.39mには上記の70°破砕面とほぼ直交する真傾2cmの破砕面が分布。下傾側の割れ目の面の一部に暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着し、かつ、黄鉄鉱をもつ。また、若干の黄鉄鉱も晶出している。	123.39	123.39	70°、真傾0.5～1cmで粘土混じり塊状を呈するが塊の回転や移動はしていない。下傾側の70°割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)と黄鉄鉱が晶出。また、123.39mには上記の70°破砕面とほぼ直交する真傾2cmの破砕面が分布。下傾側の割れ目の面の一部に暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着し、かつ、黄鉄鉱をもつ。また、若干の黄鉄鉱も晶出している。	123.39	123.39	123.39m: 傾斜70°で幅6～10mmの粘土混じり塊状を挟むが、塊の回転や移動はしていない。下傾側の傾斜70°の割れ目の面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土と黄鉄鉱が晶出する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ直交する幅20mmの岩片状が分布し、下傾側の割れ目の面の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の黄鉄鉱が晶出する。	-	



# H24-B14-2 124.59~130.16m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
546	124.59	124.89	互いに直交する約45°の割れ目ぞいに割れ、φ1~3cmの岩片を量する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したと推定される。	124.59	124.89	互いに直交する約45°の割れ目ぞいに割れ、φ1~3cmの岩片を量する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したと推定される。		124.59	124.89	124.59~124.89m 互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片を量する。脱色により白色化した低密着割れ目から分離・岩片化したものと推定される。	
547	124.89	129.41	見掛け上は5~10cmの短柱状コア主体であるが、コア中には1~3cmで脱色により白色化した低密着割れ目を含み、低密着割れ目ぞいに分離・細片化する(コア形状「V」)。	124.89	129.10	見掛け上は5~10cmの短柱状コア主体であるが、コア中には1~3cmで脱色により白色化した低密着割れ目を含み、低密着割れ目ぞいに分離・細片化する(コア形状「V」)。		-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
548	125.10	125.65	125.10m、35°、125.65m、30°の各割れ目面と割れ目周縁2~3cmが實質により暗緑色化。後者の割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着する。また、若干の黄鉄鉱が晶出している。	125.30	125.65	125.30m、35°、125.65m、30°の各割れ目面と割れ目周縁2~3cmが實質により暗緑色化。後者の割れ目の面には暗緑色粘土(厚さ0.5mm以下)が付着する。また、若干の黄鉄鉱が晶出している。		125.30	125.65	125.30m・35°と125.65m・30°の各割れ目面と割れ目周縁2~3cmが實質により暗緑色化する。後者の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土を挟み、若干の黄鉄鉱が晶出する。	
549	125.10	125.65	(コアの形状欄) Vランク (岩鏡区分欄) CL	125.10	125.65	(コアの形状欄) IVランク (岩鏡区分欄) CM		125.10	125.65	(コアの形状欄) IVランク (岩鏡区分欄) CM	
550	126.00	128.65	126~128.65mで赤味は赤味おびる。特に、126.00~128.63m間では赤味が強い。	126.00	128.65	126.00~128.65mで赤味を帯びる。特に、126.00~128.63m間では赤味が強い。		126.00	128.65	126.00~128.65m コアは赤味を帯びる。特に、126.00~128.63m間では赤味が強い。	
551	126.25	126.67	45°前後の割れ目や低密着割れ目ぞいを中心に暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土膜は分布しない。	126.25	126.67	45°前後の割れ目や低密着割れ目ぞいを中心に暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土膜は分布しない。		126.25	126.67	126.25~126.67m 傾斜45°前後の割れ目や低密着割れ目ぞいに暗緑色化と赤褐色化部が互層状に分布する。粘土付着や粘土膜は分布しない。	
552	126.62	126.62	35°割れ目に緑色粘土が付着し、微細な黄鉄鉱が晶出。	-	-	-		126.62	126.62	126.62m 傾斜35°の割れ目に緑色粘土が付着し、微細な黄鉄鉱が晶出する。	
553	126.67	130.30	(割れ目状態欄) cランク	126.67	130.30	(割れ目状態欄) bランク		126.67	130.30	(割れ目状態欄) bランク	
554	126.72	126.72	126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。	126.72	126.72	126.72m付近より割れ目は未風化となる。長石の白濁化も認められなくなる。		-	-	-	
555	126.80	127.04	35°と60~70°の割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差するため、φ1cm前後の岩片に砕けている。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	-	-	-		126.80	127.04	126.80~127.04m 傾斜35°と60~70°の割れ目のいずれもが約1cm間隔で分布し交差する。径1cm前後の岩片を量する。割れ目の面はほぼ未風化で、粘土の付着もない。	
556	127.73	127.90	石英が濃集し、全体として珪質となる。	127.73	127.90	径1~3cm程度の石英、長石、カリ長石の珪晶が濃集する。全体として珪質となる。		127.73	127.90	127.73~127.90m 径1~3cm程度の石英、長石、カリ長石の珪晶が濃集する。	
557	127.03	127.63	45°割れ目に真幅0.5mmの暗緑色粘土が付着し、φ0.1~0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出。	-	-	-		127.63	127.63	127.63m 傾斜45°で幅0.5mmの暗緑色粘土を挟む。径0.1~0.2mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	
558	127.80	123.50	30~40°と60~80°の割れ目が交差し、φ1~3cmの硬質岩片を量する。粘土付着は劣化は認められない。	127.80	128.15	30~40°と60~80°の割れ目が交差し、φ1~3cmの硬質岩片を量する。粘土付着は劣化は認められない。		127.80	128.15	127.80~128.15m 傾斜30~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmの硬質岩片を量する。粘土の付着はなく、劣化は認められない。	
559	126.58	128.58	40°割れ目に真幅1mmの暗緑色粘土が付着。真幅0.5mmの白色・方解石脈付着。	-	-	-		128.58	128.58	128.58m 傾斜40°で幅1mmの暗緑色粘土を挟み、幅0.5mmの白色・方解石脈を伴う。	
560	126.60	128.90	概ね1~3cm間隔で低密着割れ目が多く分布。ハンマーの軽打で細岩片化する。	-	-	-		128.60	128.90	128.60~128.90m 概ね1~3cm間隔で低密着割れ目が多く分布し、ハンマーの軽打で細岩片化する。	
561	128.70	131.00	(コアの硬さ欄) cランク	128.70	131.00	(コアの硬さ欄) bランク		128.70	131.00	(コアの硬さ欄) bランク	
562	129.00	129.08	60~80°と20~30°の割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い「C」。	129.00	129.08	60~80°と20~30°の割れ目が交差し、φ1cm程度に細片化する。岩片自身は硬い「B」。		129.00	129.08	129.00~129.08m 傾斜60~80°と20~30°の割れ目が交差し、径1cm程度に細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
563	129.08	129.40	長さ3~6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1~2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃でφ1~2cmに細片化する。	129.08	129.40	長さ3~6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1~2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃でφ1~2cmに細片化する。		129.08	129.40	129.08~129.40m 長さ3~6cmの短柱状コア中には低密着割れ目が1~2cm間隔で網状に分布し、ハンマーの打撃で径1~2cmに細片化する。	
564	129.60	129.60	70°と80°の割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲ではφ0.5~1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土膜は分布しない。	-	-	-		129.60	129.60	129.60m 傾斜70°と80°の割れ目が近接し、両割れ目で囲まれた範囲では径0.5~1cm程度に細片化する。粘土の付着、粘土膜は分布しない。	
565	130.16	130.16	130.16、35°の割れ目の一部が褐色風化する。劣化は伴わない。	130.16	130.16	130.16m、35°の割れ目の一部が褐色風化する。劣化は伴わない。		130.16	130.16	130.16m 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。	

# H24-B14-2 130.16~136.30m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
566	130.16	-	130.16m以深では、長石(φ2~3mm)の一部が白濁化する。	-	-	-	130.16	-	130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。	-
567	129.79	131.00	35~45°とこれと直交ないし斜交する10~40°の割れ目が交差し、φ1~3cmの岩片を呈する。割れ目には粘土付着や粘土脈は分布しない。	-	-	-	129.79	131.00	129.79~131.00m・傾斜35~45°と、これと斜交~直交する傾斜10~40°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。粘土付着や粘土脈は分布しない。	-
568	130.50	130.54	45°割れ目ぞいに暗緑色化する。粘土化はないが、真幅1~3mm石英脈を伴う。	130.50	130.54	45°割れ目ぞいに暗緑色化する。粘土化はないが、真幅1~3mm石英脈を伴う。	130.50	130.54	130.50~130.54m・傾斜45°の割れ目ぞいに暗緑色化する。粘土化はないが、幅1~3mmの石英脈を伴う。	-
569	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Bランク	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Bランク	130.57	131.00	(割れ目状態欄)Bランク	-
570	131.00	132.00	ノンコア(コア採取できず)	131.00	132.00	コア欠如(コア採取できず)	131.00	132.00	131.00~132.00m:コア欠如	-
571	131.00	132.00	(地質名欄)空欄	131.00	132.00	(地質名欄)コア欠如	131.00	132.00	(地質名欄)コア欠如	-
572	132.00	133.46	上記同様、割れ目と低密度割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、φ1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。実質と風化による劣化はないが、133.46mの10°割れ目には暗緑色粘土が厚さ1mm程度で付着している。	-	-	-	132.00	133.46	132.00~133.46m:割れ目と低密度割れ目が1~3cm程度の間隔で密に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。実質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には幅1mm程度の暗緑色粘土を挟む。	-
573	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Bランク	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	132.00	134.00	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
574	132.00	133.30	132.00~132.65mと133.10~133.30mは、φ1~2cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さ「C」)。	132.00	133.30	132.00~132.65mと133.10~133.30mは、φ1~2cmの岩片に砕けて採取されているが、岩片は硬い(硬さ「B」)。	132.00	133.30	132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
575	133.57	134.00	割れ目ぞいに長さ5mm前後の扁平な細脈に砕けている部分が多い。扁平脈自身は硬質で劣化はない。また、隙には粘土は付着していない。	133.57	134.00	割れ目ぞいに長さ5mm前後の細長い細脈に砕けている部分が多い。扁平脈自身は硬質で劣化はない。また、隙には粘土は付着していない。	133.57	134.00	133.57~134.00m:割れ目ぞいに長さ5mm前後の細脈状を呈する部分が多い。隙に粘土は付着しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
576	134.00	135.00	134.00~135.00m:ノンコア(コア採取できず)	134.00	135.00	134.00~135.00m:コア欠如(コア採取できず)	134.00	135.00	134.00~135.00m:コア欠如	-
577	134.00	135.00	(地質名欄)空欄	134.00	135.00	(地質名欄)コア欠如	134.00	135.00	(地質名欄)コア欠如	-
578	135.00	135.50	岩片は10~30°、主体に1~2cm間隔で細かく割れ目が分布。岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	135.00	135.50	岩片は10~30°、主体に1~2cm間隔で細かく割れ目が分布。岩片自身は硬質。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。石英の斑晶は肉眼では確認できない。	135.00	135.50	135.00~135.50m:傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
579	135.00	135.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Cランク	135.00	135.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	135.00	135.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
580	135.50	136.00	ノンコア(採取できず)	135.50	136.00	コア欠如(採取できず)	135.50	136.00	135.50~136.00m:コア欠如	-
581	135.50	136.00	(地質名欄)空欄	135.50	136.00	(地質名欄)コア欠如	135.50	136.00	(地質名欄)コア欠如	-
582	136.00	136.30	φ1~2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔(1~2cm)のクラッキー岩盤と評価し、相区分組合せを「eVG」と評価し、本区間をCLと判定した。	136.00	136.30	φ1~2cm程度に砕けて岩盤状況は不明であるが、各岩片には粘土付着がないため、割れ目間隔(1~2cm)のクラッキー岩盤と評価し、相区分組合せを「bVB」と評価し、本区間をCLと判定した。	136.00	136.30	136.00~136.30m:径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。	岩片状で岩級区分要素の組合せが同じ区間をまとめて書きした。記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩級の情報は記載しない



# H24-B14-2 136.00~150.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		追記した記事内容	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
583	136.00	136.30	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)D	136.00	136.30	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CL	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをランクに変更した ・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	136.00	136.30	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CL	-
584	136.30	136.50	(岩級区分欄)D	136.30	136.50	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	136.30	136.50	(岩級区分欄)CLに含める	-
585	136.20	136.27	eVC組合せのCL	136.20	136.30	bVB組合せのCL	・上記の組合せの変更に伴い、変更した ・同様な岩体状況が見られたため下端深度を変更した	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
586	136.27	136.50	スライムも多く含むが、dVIDが2とし、D級と判定した。	136.30	136.50	スライムも多く含むが、dVIDが3とし、D級と判定した。	・評価が傾りのため、修正した	136.30	136.50	136.30~136.50m:スライムを多く含む。	・記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩級の情報は記載しない
587	136.50	136.75	ノシコア(採取できず)、部分的に粘土状のものを含む。	136.50	136.75	コア欠如(採取できず)、部分的に粘土状のものを含む。	・表現の統一(コア欠如)	136.50	136.75	136.50~136.75m:コア欠如、部分的に粘土状のものを含む。	-
588	136.50	136.75	(地質名欄)空欄	136.50	136.75	(地質名欄)コア欠如	・表現の統一(コア欠如)	136.50	136.75	(地質名欄)コア欠如	-
589	136.75	137.08	φ1~2cmの岩片に砕ける岩盤状況は不明であるが、136.00~136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。	136.75	137.08	φ1~2cmの岩片に砕ける岩盤状況は不明であるが、136.00~136.20mと同じ理由によりCL級と判定した。ただし、組合せはeVCである。	・各項目のランクの組合せを追記した	136.75	137.08	136.75~137.08m:φ1~2cmの岩片からなる。	・記事欄以外から読み取れる各要素の組合せや岩級の情報は記載しない
590	137.08	138.21	(変質欄)2ランク	137.08	138.21	(変質欄)3ランク	・上位に比べて変質の程度が強いため変質のランクを3ランクに変更した	137.08	138.21	(変質欄)3ランク	-
591	137.08	138.42	全体に緑色をおびている(緑泥石化の変質作用?)。割れ目間隔が概ね1~3cmの10~30°の割れ目とこれと斜交する40~50°の割れ目からなる。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の高割れ目系交差部の一部や、137.67~137.73mの45~50°の割れ目においては、φ1cm前後の破砕塵状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性がある。石英の結晶は肉眼では確認できない。	137.08	138.42	全体に緑色をおびている(緑泥石化の変質作用?)。割れ目間隔が概ね1~3cmの10~30°の割れ目とこれと斜交する40~50°の割れ目からなる。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の高割れ目系交差部の一部や、137.67~137.73mの45~50°の割れ目においては、φ1cm前後の破砕塵状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性があるが、煤の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。石英の結晶は肉眼では確認できない。	・表現の適正化(帯びる、沿い) ・煤の回転や移動、定向配列の有無について追記した ・追記した理由から破砕部ではないと判断して「破砕」を削除した ・石英の結晶は見られるため削除した	137.08	138.42	137.08~138.42m:全体に緑泥石化により緑色をおびている。概ね1~3cmの間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の高割れ目系交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目においては、φ1cm前後の塵状を呈し、暗緑色粘土が付着する可能性があるが、煤の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。	-
592	138.21	138.42	(変質欄)3ランク	138.21	138.42	(変質欄)4ランク	・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した	138.21	138.42	(変質欄)4ランク	-
593	138.21	138.42	変質作用による岩盤劣化部。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。	138.21	138.42	変質作用による岩盤劣化部。割れ目系交差部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。	・岩盤劣化部の性状及び原岩組織の有無について追記した	138.21	138.42	138.21~138.42m:変質した割れ目系交差部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。	-
594	138.36	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、(変質作用による)細粒化する。岩自体も軟質となる(硬さE)。	138.36	138.42	上位に比べて岩盤が劣化し、(変質作用による)細粒化する。岩自体も軟質となる(硬さE)。脈状の粘土は伴わない。	・粘土の挟在について追記した	138.36	138.42	138.36~138.42m:上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。	-
595	138.42	139.21	(割れ目状態欄)Cランク (コアの硬さ欄)Cランク	138.42	139.21	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した ・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	138.42	139.21	(割れ目状態欄)Bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
596	138.42	140.04	岩自体は硬質(硬さC)であるが、傾斜50°~60°の割れ目が発達し、それと交わる30°程度の割れ目が発達する。	138.42	140.04	岩自体は硬質(硬さB)であるが、傾斜50°~60°の割れ目が発達し、それと交わる30°程度の割れ目が発達する。	・コアに合わせてコアの硬さを変更した	138.42	140.04	138.42~140.04m:傾斜50°~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
597	138.63	138.66	上下位に比べて岩盤が劣化し、軟質となる(硬さE)。緑色を帯び細粒化する。	138.63	138.66	上下位に比べて岩盤が劣化し、軟質となる(硬さE)。緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。	・粘土の挟在について追記した	138.63	138.66	138.63~138.66m:上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。	-
598	139.21	139.50	軽微な変質を受け、割れ目沿いに緑色を帯びる。岩自体は硬質(硬さC)。	139.21	139.50	軽微な変質を受け、割れ目沿いに緑色を帯びる。岩自体はやや硬質(硬さC)。	・コアに合わせて硬質を変更した	139.21	139.50	139.21~139.50m:弱く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
599	139.50	140.04	(コアの硬さ欄)Cランク	139.50	140.04	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	139.50	140.04	(コアの硬さ欄)Bランク	-
600	139.50	150.00	(割れ目状態欄)Cランク	139.50	150.00	(割れ目状態欄)Bランク	・割れ目に挟在物を伴わないことが多いため割れ目状態のランクをBランクに変更した	139.50	150.00	(割れ目状態欄)Bランク	-